

バトン

私の「バトン」

4年 K・Sさん

「バトン」という題名にはどんな意味がこめられているのだろう。

ひな人形をきっかけにして、圭は病気の力オルのためにひな人形を作ったおばあちゃんの気持ちを知ることができました。ハッサンはお母さんの戦争の時の悲しみを初めて知り、お母さんとの絆を深めることができました。朝子はひな人形をおばさんに見せたことで、今まであまり話せなかったおばさんと話せるようになりまし。また、柳さんが自然を大切にすることを話していなければ、このひな人形が生まれることがなかったことも、圭達は知ることができました。受けつがれたのはひな人形という「物」だけでなく、それに関わった沢山の人の想いなのかもしれないと感じました。

(私の「バトン」って何だろう?) 自分にも何かバトンがあるのではないかと考えた時、七五三の着物のことを思い出しました。七五三で私が着た着物は、お母さんが七五三の時に着た着物です。白色で鶴や花の模様がえがかれた綺麗な着物でした。私の着物姿を見て、おばあちゃんは、

「おばあちゃんのお母さんは、Kちゃんママが七五三の時にはもうなくなってしまっていたのよ。だから、自分でママに似合うものを一生懸命考えて準備したの。何十年かたって、Kちゃんがその着物を着てくれるなんてね。」

と、嬉しそうに言いました。初めてお化粧をしてお母さんの着物を着て、何だか急に大人になったような気がしました。

数日後、お母さんとおばあちゃんが、着物を処分するかどうか話し合っていました。私は心の中で(とっておいてほしいな。)と思いましたが、その時は言えませんでした。

→服屋さんに着物のクリーニングをお願いしに行く。

「この着物素敵ですね。今はこういう柄珍しいんですよ。私も自分の孫にこんな着物を着せたかったなあ。」

と言われました。その時私はすごく誇らしくて、いつか自分の子供にもこの着物を着せたいと心の底から思いました。

この着物は私の「バトン」です。将来、私の子供がこの着物を着る時が来たら、おばあちゃんのことや、私の七五三の時の思い出を沢山話してあげたいと思います。